

会 議 録

会議名 (付 属 機 関 等 名)		第 20 回 (令 和 2 年 度 第 1 回) キセラ川西エコまち協議会		
事務局 (担 当 課)		土木部 キセラ川西推進課		
開催日時		令和 2 年 11 月 13 日 (金) 15 時 00 分 ~ 17 時 00 分		
開催場所		オンライン開催		
出席者	委員	加藤、山中、松村、武田、牧田、安田、加美田、大西、中家、中垣、畑中、船木、阪上、井上、五島 (敬称略)		
	その他	(オブザーバー) 大畑 (代理) (敬称略)		
	事務局	福庭、錦織、古山、山村、名嘉眞 寺田、堀内、渡辺、池永、小早川 (公園緑地課) 絹原、中川、西本 (調査機関)		
傍聴の可否		可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由				
会議次第		1 開会あいさつ (土木部 部長) 2 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・ まちの PR (資料 1-1-1、1-1-2) ・ エコまち建築賞 (資料 1-2) ・ 建築分野におけるエネルギーモニタリング (資料 1-3-1、1-3-2、1-3-3) ・ エコまち運用基準の改定 (資料 1-4) 3 報告 (前回からの続き) <ul style="list-style-type: none"> ・ エコまち計画完了までのスケジュール (資料 2-1) ・ 交通部会について (資料 2-2-1、2-2-2) ・ みどり部会について (資料 2-3-1、2-3-2、2-3-3) ・ 建築行為等の手続条例運用状況 (令和 2 年 9 月 30 日時点) (資料 2-4) ・ 環境学習・普及啓発 (資料 2-5) ・ みどり分野におけるまちの緑化モニタリング及び状況報告 (資料 2-6) 4 今後の予定		
会議結果		別紙審議経過のとおり		

審議経過

<開会>

1. 開会あいさつ

(土木部 部長あいさつ)

- ・本会議は、本来であれば昨年度末、3月に開催する予定のものを、本日開催の運びとなった。Zoomを使用したりリモート会議は、行政は不慣れであるので、ご協力いただきたい。
- ・区域内では、区画数の10%を残して土地利用が進んでおり、今年9月に病院の起工式が執り行われ、基礎工事が進行している。また、民間の土地利用も順次進んでおり、商業施設もオープンしてから随分の時間が経過し、区域の建築物の建築も進み、落ち着きを見せてきている。
- ・先日はエコまち建築賞の選考会をオンラインで行い、新たな建築賞の候補を選定した。エネルギーモニタリングについても安定的に実施できている。あわせて本会議で結果を報告する。
- ・この区域は公園がオープンして3年、樹木も安定し、たくさんの人で賑わっている。令和元年5月に管理棟パークオフィスキセラ丸がオープンし、市民の利活用が始まり、キセラ・カフェで2ヶ月に1回会合が行われており、前向きな検討がされている。市民参加もワークショップから引き続いて、継続的に参加されている。今後は、シビックプライドの醸成に関する評価方法が課題となっている。
- ・エコまち計画期間が令和4年度まであり、終わりが見えてきたので、その先の形についてどのように創造していくかも新たな課題と認識しており、協議会でご意見・ご明察をいただきたくれればと思う。よろしく願いしたい。

会長

- ・まちのPRについて事務局から説明をお願いします。

2. 議事

まちのPR

○事務局

- ・資料説明
まちのPR(資料1-1-1、1-1-2)

委員

- ・パンフレットの最後にある「みんなで育てていきましょう」というメッセージは素敵だと思う。
- ・活動してみたいと思える言い回しが本文の中にあってもよいのではないかと。公園のページについて、「ガイドラインを作成しています」で終わるのではなく、ガイドラインを作成しているので「是非見てください」「活動してください」という終わりにした方がよい。仕組みのページについて、「市民の方も企業の方も是非活動に参加してください」等、本文を語り掛ける終わり方でもよいのではないかと。
- ・表紙のわたしたち「で」というのが気になる。うがった見方をすると、私たち=市という風になるので、わたしたち「が」の方がよいのではないかと。

事務局

- ・いただいた意見を踏まえて修正したい。

会長

- ・キセラ川西のロゴに4つのテーマがあり、それを受けた後の文章内で、1つ目のテーマと4つ目のテーマについては本文中に同じ言葉の記載がある。一方、2つ目と3つ目のテーマについては、「複合型のまちづくり」の中になぞらえて編集しているのか。
- ・ページ数はうつのか。

○事務局

- ・ページ数をうつ予定はない。
- ・2つ目のテーマ、3つ目のテーマとも、写真のところに、それぞれ「一歩すすんだハイグレードなまち」、「暮らしのいろんなシーンを楽しむまち」と記載している。

○委員

- ・よくまとめられていると思った。
- ・SDGsについて、全体的に取り組んでいるという表現だが、SDGsのどの部分を重点的に取り組んでいるかがわかると良いのではないか。

○事務局

- ・SDGsの該当する箇所を囲むなどして分かりやすいように変更する。

○会長

- ・アナログで表現するというのも重要だが、GOALSを表現することも考えられるのではないか。

○事務局

- ・現在の取組内容とSDGsの関連性を整理して、検討したい。

○会長

- ・委員のご指摘にあった、「あなたの参加を待っていますよ」という働きかけは市としては良いのではないか。
- ・他、なければ、ご意見反映して、承認とさせていただきたい。

エコまち建築賞

○事務局

- ・資料説明
エコまち建築賞（資料1-2）

会長

- ・昨年度の講評と、今年度の選考会の結果の2件について候補となったという報告をいただいた。補

足すると、住宅が2件あったが、例年に比べると少し賞には届かないと評価した。ホームセンターも の数が少ないということと、消防署とオアシスタウンの方が優れていたということで2件選考させていただいた。

- ・特にご異議ないようなので、表彰物件として決定したい。

建築分野におけるエネルギーモニタリング

○事務局

- ・資料説明

建築分野におけるエネルギーモニタリング（資料1-3-1、1-3-2、1-3-3）

○委員

- ・大変分かりやすく説明いただいた。公表案2枚目の(5)の図4について、令和元年度のグラフがあり、一般の方々に向けて公表するということだが、協議ありの標準とはどういう意味か。また、実績の分からないものに対して、10%削減と仮定しているということか。

○事務局

- ・標準について、建物の計画が分かっているものは、延床面積×【建物の原単位】をしたものであり、協議ありとなしで同じ数値を使っている。

○委員

- ・図4の赤線が10%削減を意味しているのか。

○事務局

- ・赤線は、エネルギー消費量が10%削減されたと仮定した場合の削減目標である8%を意味している。
- ・標準では、協議をしており、面積が分かっているので協議ありとなしで同じ数値を使っている。エネルギーモニタリングの対象で、実績が出ていたら削減量を量ることができるが、調査をしていないので同じ数値を使っている。

○委員

- ・協議なしについても協議はしているのか。協議してもしなくても分からないので、原単位を使っているのではないか。

○調査機関

- ・標準については、【建物の原単位】×延床面積で算出している。削減量は、実績データをいただいたものから算定している。図5の協議ありの標準は、協議して回答いただくと割合が減少していく。
- ・まち全体の目標としては数値として出されていない。図4について、エネルギー消費量が10%削減された場合で試算したものであり、標準の割合が小さくなると削減量も増加していく。また、削減目標の8%は実現可能だと表現するために示している。

○委員

- ・ピンク色になっている建物は標準のごく一部である。その建物で、6%だということは、削減量が30%程度出来ているということである。
- ・標準は、現在わからないところで使っているということなので、一般の人が見ると、とても分かりにくい。グラフは、分かりやすい形に変えていただきたい。

○会長

- ・目的は目標に向かっているのかということであるので、削減量が推計値なのか、確定値なのかということが重要である。したがって、削減量の推定値というタイトルを書いていただくことが重要である。もう少し、文章を単純化してはどうか。

○委員

- ・この標準という言葉が持っている意味が、不明分であるということが分かればよい。

○会長

- ・公表時点でどうかということを確認すべき。将来変わるとしても、今後変わる可能性があるというような記載の仕方をした方が良いのではないか。
- ・将来増えるという記載をすると、今の推計値の意味が分かりづらくなってしまうので整理が必要である。
- ・結論的には、十分成果が上がっているかと思う。特に、現政権では、炭素をゼロにする未来が見えている。
- ・資料1-3-3は初めての試みであるが、公表にあたって皆さん快く応じていただいたということで取り扱いたい。

エコまち運用基準の改定

○事務局

- ・資料説明
エコまち運用基準の改定（資料1-4）

○会長

- ・条例の変更を行うが、基準を変えた後に冊子を作るのか。

○事務局

- ・手続条例を改定したので、エコまち運用基準についてもあわせて、新たに冊子を作る。

○会長

- ・ご意見・ご質問はいかがか。追って影響が出てくるかもしれないが、上位法に基づき自動的に変更をしたということで、承認としたい。

3. 報告（前回からの続き）

○事務局

・資料説明

エコまち計画完了までのスケジュール（資料 2-1）

交通部会について（資料 2-2-1、2-2-2）

みどり部会について（資料 2-3-1、2-3-2、2-3-3）

建築行為等の手続条例運用状況（令和 2 年 9 月 30 日時点）（資料 2-4）

環境学習・普及啓発について（資料 2-5）

みどり分野におけるまちの緑化モニタリング及び状況報告（資料 2-6）

○会長

・環境学習・普及啓発も低炭素まちづくり計画に位置付けているのか。また、活動主体はどうなっているのか。

○事務局

・低炭素まちづくり計画に位置付けられており、PFI 事業の一環として実施している。

○会長

・事業者が責任をもって実施しているということか。

○事務局

・市と連携して実施している状況である。

○会長

・これだけのことをよく実施しているという印象である。緑のモニタリングも含め、徐々に成果が出ているように思う。

○委員

・公園の評価について、利活用の状況を定期的にまとめていただいているのは貴重な資料と思うが、一方、利用者数やイベント数だけが公園の評価ではない。新規利用者の属性や利用の多様性、日常的な利用のされ方、クオリティ・オブ・ライフ（生活の質）等がどう上がったのかも公園の利用の面で大切な評価である。また、公園を利用することが周辺の社会的、経済的に与える影響の方が大事なので、イベント数や利用者数だけにとらわれず評価した方が良い。

・順応的管理（アダプティブ・マネジメント）について、美化清掃をメンテナンスプロジェクトと言われており、ネーミングもすごくよいと思う。市民の方を通じて、トラブルなどにきめこまやかに市民の方と連携して取り組む視点は大事だと感じるので、継続的な展開が必要である。

・そのためにも、今後の継続性のための組織・体制づくりの工夫が必要である。この指とまれプロジェクトの活動をさらに展開して、パークマネジメントの担い手やエリアマネジメントの在り方につなげていくことが重要である。

・R5 年でエコまち計画が終わるが、ここでまちづくりが終わりではなく、それからまちづくりの

本番とも言えるので、地域の方や企業の方を含めて主体を地元に移しながら、継続的なまちづくりができるかが重要だと思うので、組織づくりや協議の場をどう移行していくのか、今から徐々に考えていくことが重要な視点である。

○事務局

- ・参考にさせていただきたい。イベント利用の数にこだわらず、利用者アンケート等の分析をかけていきたいと思う。

○会長

- ・まちづくりの体制やエリアマネジメントができれば理想的だと感じる。
- ・エコまち協議会の低炭素の取り組みを改修していくという大きな課題がある。
- ・他にいかがか。交通部会で、案内標識の案を検討いただいているようだが、標識等をたてるのは、民地か公共空間かどうするのか。財源はどんなものをイメージしているのか。また、屋外広告物法の対象となるのかどうか。

○事務局

- ・標識は基本的に公共空間の道路内に設置をする予定。街歩き・現地確認をして民間敷地に設置すべきとなれば、交渉をしていきたい。
- ・財源は、一部補助を活用しながら、また交通事業者と協力しながら実施するので、施設の中であれば、どこまでお願いできるかをご相談していきたい。

○会長

- ・川西市には景観計画はあるのか。良いものを使っていただければ心配する必要はないかもしれないが、公共空間という視点で、確認しなければならないことも出てくるかもしれない。
- ・それでは、報告事項についてはこれで終了としたい。今後の予定についてお願いしたい。

4. 今後の予定

○事務局

- ・長時間に渡り、ご協議いただきありがとうございました。会長も議事進行をありがとうございました。
- ・今回、はじめてオンラインでの実施だったが、不慣れなところもありお詫びしたい。いただいた意見も踏まえて、今後進めていきたいと思うので、よろしくお願いしたい。
- ・次回の開催日は来年の3月を予定している。日程が近づいたら詳細をご案内する。